

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会
平成30年度第1回（第34回）合同会議議事概要

開催日及び場所	平成30年7月19日（木） 中央合同庁舎第4号館12階共用1211会議室
委員	委員長 國廣 正 （弁護士） 委員 今井 猛嘉 （法政大学大学院法務研究科教授） 委員 大森 明 （横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授） 委員 長岡 美奈 （公認会計士）
議事	○提言に向けた議論

議論の内容

これまでの優れた取り組みとしては、一者応札が何年か続いたときには随意契約に切りかえる、というものがある。むしろ交渉により値段も下げられ、対話をすることによってよりオーダーメイド的に出来る面もある。そのような意味において、随意契約に切りかえることは良い例になるのではないか。

もう一例として、国家機密に近い案件の扱いがある。役所は情報の塊であり、それほどの秘密性がないと思っているところを、今の情報化社会の視点から見るとあり得ると思う。

どのような提言にするか、というのが今日の議論の目的であるが、あまり複雑化した提言というよりは筋道を示すもので、原理で応用がきくような提言のほうが良い。

また、類似の案件があるときに、過去の入札、応札状況などを踏まえて、次の仕様書に反映させるなど、それを別立するのも良い。原理原則を貫くためには、そういった手法も必要。